

## 『里親になってよかった～』

(50歳代 女性)

私が初めて「里親」の体験談を聞いたのは、もう20年くらい前になります。その方は、この日本に神の愛を伝えに来たポール・ブローマン宣教師。彼は、実子を10人、養子を12人の22人を次々と、分け隔てすることなく育てました。信条は「子どもは国の宝だ」でした。「～はいい子だ。看護婦の道に進んでいる。」「～はいい子だ。母を愛している。」「～はいい子だ。・・・。」と紹介するのです。

その穏やかな声を供に、語る内容に私はある意味愕然としました。私はたった一人の息子の子育てに汲々としているのに・・・何という違いか、と。

しかし、自分とは関係ないと月日はたっていました。今になって思うと、確かにこの方の存在は私にとって、里親への布石だったと思います。

そして2000年頃、私たち家族が毎週通っている教会のすぐ近くにある児童養護施設が、県営から民営に変わることになった時です。それまで既にその施設の子ども達とは週末里親として関わりを持っていた私に、施設の職員さんは様々な苦悩を伝えてくれたのです。

特に1人の情緒障害のある女の子の将来への不安について。そして託したい意向を示されました。迷った私は聖書に聞きました。「あなたの手に善を行う力があるとき、求める者に、それを拒むな。」この明快な答えと、マッチングの時、その子は主人のことが忘れられないほど大好きになってしまったのが決定的となった訳です。

誰もが辟易としてしまうその子に、私が注意と指導をしている時、主人は「Aちゃ～ん、いい子だねえ！かわいいねえ！」と心から伝えました。するとAちゃんは本当に可愛い顔になって「ありがと」と照れながら言ったのです。そして施設に戻る時には「パパ（主人をそう呼んで）に会いたい！パパのこと考えると涙がでるー！」と泣きながら言うAちゃんを良くしてあげたいと強く思いました。そして、養育里親として迎えました。2001年でした。

とはいうものの、実際のAちゃんはADHD児。そして不安症と理解能力の不足もありました。一緒に絵本を読んであげようとしたら「も、ええ！」と終了宣言。返事の遅れた私の顔を目掛けて本をぶつける。待てなかったり、気に入らなければ暴れる。家のふすまは穴だらけ。ガラスは何枚も割れました。二階階段から私は突き落とされたこともありました。

（無事私は着地しましたが。）挨拶言葉は「あほ！」。返事は「いやっ！」。少し目を離した隙には必ず、誰かに問題行動の

ために謝罪と弁償。当然通う学校には、自立登校できずに毎日送迎。学校でも様々な問題行動のため、先生方と協議を繰り返しました。迎えた私たち家族は毎日、落ち着いて食事を楽しむ事が難しい、戦いが始まりました。「いい子、可愛い子といたいけど思えない。」「（里母の名）さんを慕いたいけど従いたくない。」条件付きの愛の関係は痛く、まるで互いに、大きな岩山をつるはしで、切り崩そうとしているかのような感じでした。無条件の愛で抱きあうのが難しかったのです。



それでも、少しずつAちゃんは落ち着いていき始め変わっていきました。夜のオシメがとれ、トイレも正しく使えるようになりました。3分とジツとしておれなかった授業を15分位は待てるようになり、やがて本が読めるようにまでなった時には、感動でした。そんな変化の励ましと、多くの方々の協力と励ましは心強い支えで、私としても専門書による学びを進めていきました。そして何より、私は神様に無条件の愛を求めることにしました。私の愛もAちゃんの愛もいつも条件付きで、互いに受け入れられない裏切り行為に、傷付きあっていたからです。そして、その愛を注いでもらった時に、Aちゃんの長い間の自傷行為（自分の額や顎を何かにぶつけて血が出ても首振りをしていた）は癒されました。私は感謝で、泣きました・・・。

その後もAちゃんとは、間違っただけの故に警察への出頭や、様々なところを通っていますが、でも今Aちゃんは素直に「はい！」を沢山言える様になりましたし、友達と仲良く遊べるようにまでなりました。後から家に里子として来たお姉ちゃんたちの言うことも聞けるようになりました。「もっと優しいことばを言える人になりたい。」これがAちゃんの今年の目標です。毎日自立登校、自転車で45分かけて特別支援学校に通っています。つい先日には、私は発覚したAちゃんの偽り行為が悲しくて、反省を促した後、外出し、2時間後に帰りました。そして反省したAちゃんに聞きました。「明日の朝のごはんの事が心配やから、帰ってほしかったん？」すると「ううん、違う。（里母の名）さんと一緒にいたいけん！」Aちゃんの心の底から出たこのことばを私はどれほど嬉しかったかわかりません。初めて聞いたことばでした。涙とともに抱きしめたのです。

1人の子にこれ程の喜びがあり、それに留まらず、3人もの喜びをここに書ききれない位、与えられた私。里親になって本当によかった～。やりがいのある価値ある働きです。

